

平成21年度 大学入試結果

国公立大学		大学	人数	大学	人数	大学	人数	大学	人数
		名古屋市立	1	東京都市	1	中京	5	龍谷	3
大学	人数	三重	12(医3)	東京理科	4	中部	1	関西	7
北海道	2	滋賀	2	東洋	2	藤田保健衛生	4	近畿	3
東北	1	京都	2	日本	6	南山	6	大阪工業	1
山形	1	大阪教育	1	日本歯科	1	豊田工業	1	大阪薬科	2
茨城	1	大阪府立	2	日本女子	2	名古屋学芸	1	関西学院	9
高崎経済	1	神戸	2	武蔵野美術	1	名古屋美術	1	甲南	2
埼玉	1	岡山県立	1	順天堂	1	名古屋女子	1	神戸薬科	3
埼玉県立	1	総計	55	法政	2	名城	20	広島経済	1
首都大学東京	1	私立大学		明治	9	皇學館	10	総計	239
千葉	1		デジタルハリウッド	1	鈴鹿医療科学	6	大学校		
電気通信	1	大学	人数	獨協	1	長浜バイオ		2	大学
東京工業	1	慶應義塾	2	神奈川工科	1	京都外国語	1	水産	1
東京農工	1	青山学院	7	東海	1	京都学園	1	総計	1
金沢	1	実践女子	1	北里	1	京都産業	3	短大・専門学校	
山梨	1	芝浦工業	2	金沢工業	3	京都女子	7		
都留文科	2	昭和女子	1	諏訪東京理科	1	京都薬科	2	大学	人数
信州	3	上智	1	朝日	2	同志社	19	立教女学院短期	1
岐阜	1(医1)	専修	3	愛知	3	同志社女子	4	上智短期	1
静岡	2	早稲田	1	愛知学院	6	立命館	20	国立三重中央医療センター	1
愛知県立	2	中央	8	愛知工科	1	金城学院	6	総計	3
名古屋	3	津田塾	1	愛知工業	2	椋山女学園	3		
名古屋工業	4	帝京平成	1	愛知淑徳	3	大同工業	1		

2009年度入試を終えて

進路指導部長 松本 敬

大学入試を終えた受験生を対象にして行った「受験生が志望大学を決定する時に重視する項目は何か」という調査によると、1位が大学の知名度(45.9%)、2位が大学の入試難易度(41.8%)、3位が大学の設置学部・科学・専攻(34.9%)という結果になっている。特に、大学の知名度については、10年前の調査結果と比べるとその割合は10%以上も高くなっている。18歳人口が減少し、大学全入時代到来と言われているなか、受験生の大学の知名度やブランドに対するこだわりは逆に強くなっていることがこの結果からわかる。

そのような現状のなか、近年様々な場面で取り上げられる2つの重要な数字がある。ここで、少しその数字についてふれてみたい。まず1つ目の数字は、約11%という数字である。この数字は大学の中退率を示している。そしてこの数字は、調査の仕方によっては約20%になるとも言われている。しかも、その多くは大学入学後1年以内の学生であるという事実にも驚かされる。もちろんそこに至る理由も様々であるが、その中でも多いのが次の2つである。

1つは、「何となく名前やイメージで決めたけど、実際には…」という、受験前に抱いた想像と入学後に直面した現実とのギャップである。これは、前述の調査結果に全く反するものであり、やはりただ単に大学の知名度やブランドイメージに流されるのではなく、それぞれの将来の夢や目標を見据えてそれを実現できる場所はどこなのかをよく見極めることが、いかに重要かを実感させられる。

もう1つは、「第1志望の大学ではなかったから」、「本当に行きたい大学ではなかったから」という、「大学受験を納得いく形でやり遂げることができなかった」という達成感の低さや後悔からくるものである。極端な二極化が進むこの時代、高みを目指せば目指すほど『大学入試』は厳しさを

増していくが、ある程度よしとするならば『大学進学』はさほど難しいことではない。受験生の心理を考えてみれば、「早く受験が終わってほしい」、「早く受験勉強から解放されたい」と考えるのは必然であり、たとえ第1志望ではなくても、たとえまだ受験が残っていても、目の前に「合格」の2文字が飛び込んでくれば、そこで歩みを止めたくなくなる気持ちは誰にでも起こりうる。しかし、その妥協がもたらすものが、この11%という残念な数字なのだ。

2つ目の数字は、約35%という数字である。これは、大卒者の就職後3年間以内での離職率である。この数字も、就職後1年以内の離職率が最も高く、1年目が約15%、2年目は約11%、3年目は約9%となっている。そして、前述の約11%という大学中退率と合わせ、現代社会が抱えるこの2つの深刻な数字には、深い結び付きがあると考えられている。

世界的な金融危機による100年に1度と言われる不況で、明確な目標を持ちにくい時代ではあるが、これからの時代を生き抜く上で、自分で目標を立て、その達成に向けて継続的に課題に取り組み意欲を持ち続け、試行錯誤を繰り返しながら、何かを『やり遂げる』ことは、きっとその後の人生において大きな糧となるだろう。受験は人間的にも大きく成長する絶好の機会なのだ。大学進学は、決してそこがゴールではなく、ゴールへたどり着くための1つの節目でしかない。このような厳しい時代だからこそ、後悔することなく人生の新しいステージへの第一歩を踏み出せるよう、自分の可能性を極限まで試し、大学入試を最後までやり遂げて欲しいと願う。

あとかき

今回は、一学期ということで、先生の紹介、クラブの紹介を中心にさせて頂きました。先生のアンケートはいかがでしたか?楽しんで頂ける紙面になったと思っております。今年初めての五年生の北海道研修旅行、二年生の平和学習も掲載いたしました。70号発行にあたりご協力ありがとうございました。(広報部一同)